

2011 年 3 月 15 日(火)

午前 9:30 ~ 9:40

CRT 両毛支局(足利市)にて収録

今こそ自律的な活動を行おう(2)

- 東日本大震災下の過ごし方を考える -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q:「計画停電」について、つけ加えることはありますか。

A: はい。私は今まで多くの国々に出掛け、数え切れないほど停電を経験していますが、停電の前に「これから〇〇時間、この地域で停電をしますからよろしく」という旨の通知を受けたことは一度もありませんでした。他の国では、停電はいつでも、どこでも、突然行われ、いつ復旧するかを尋ねても誰も答えてはくれません。

電力会社が計画的に停電を行うことはあっても、事前にその詳細を国民に知らせることはあり得ないというのが私の認識でした。

爆発の危険性を含む原子力発電所の事故や火力発電所の活動停止は、いくらマグニチュード 9.0 という日本の歴史上まれにみる大震災であっても大問題ではありますが、以上のような意味で東京電力による「計画停電」は、国際的に見れば親切この上ない対処であると私は考えます。

最初の何日かは、慣れないために数多くのトラブルが生じており、激しく非難をされています。それらの批判はすべて正しいと思われますが、日本人は「カイゼン」の名人ですので、また、電力会社、電力の利用者ともに学習能力や順応能力が極めて高いので、少しずつかもしれませんがこの危機は必ず乗り切れると私は確信しております。

<新聞をじっくり読もう>

Q: 東日本大震災下で自律的、つまり自分自身を律しながら活動するにはどうしたらよいのでしょうか。

A: 厳しいことではありますが、現実を直視することが大事だと考えます。

この CRT ラジオ栃木放送をはじめラジオ局、TV 局、新聞社は「真実を報道する」という「社会的使命」に基づいて、東日本大震災の発生直後から 24 時間ニュースを発信し続けて下さっています。

ラジオを聞き、TV を見、新聞を読んで、今、何がどのように起こっているのか、現実を直視することが大事です。

自らの生命の危険を省みる、気にかけることなく、「使命」という文字の通り命を使いながら報道の仕事に携(たずさ)わっておられます。そのような方々の尊いお仕事の成果(out put アウト・プット)としてのラジオやテレビのニュース番組、新聞の記事は、大切な情報として参考にすべきだと私は考えます。

文部科学省では、新年度から「新聞を教育へ」(NIE, Newspaper In Education)を導入することを推奨し始めました。私は、東日本大震災の下でこそ、大人も子どもも、ラジオ、TV の報道番組とと

もに新聞を毎日じっくり読み、この日本で何が起きているのか、世界はどう動いているのか、今住んでいる地域はこのような緊急時にどうなっているのかを正確に認識して頂きたいと希望します。
ラジオやTVの報道番組づくり、新聞の紙面づくり、印刷や配達は困難を極めています。

Q：新聞をどのように活用したらよいのですか。

A：新聞を読み続けて身につく能力は、自分で考える力、もっと言えば批判的思考能力(Critical Thinking クリティカルシンキング)であると私は考えます。

私は、小学生は20分以上、中学生は40分以上、高校生以上は60分以上新聞を毎日じっくり読み、自分で考える力、批判的思考能力を身につけるよう開倫塾を創業以来30年間訴え続けています。日本の歴史の上で非常に重要な記録ですので、この東日本大震災の新聞記事だけはすみからすみまでじっくり読み込んだ上で、一定の場所に保存し、何回も何回も読み返して頂きたいと希望します。

もしできれば地図帳を手元に置き、地名が出てきたら1か所、1か所、確認すること。意味のよくわからない語句が出てきたら辞書で意味を調べ、調べた内容はノートにメモをして何回も読み返し、ことばの意味を覚えましょう。書けなそうな語句は、何回も書き取り練習をする。これもとてもよい勉強になりますよ。

1～2か月たったなら、大切と思われる記事や写真を切り抜いて、スクラップブックにのりで貼り付け、自分の意見や感想も書いておくことをお勧めします。大震災の内容をジャンル(分野)別に分け、スクラップすることも大切かと思います。

Q：なぜ新聞を読むと自分で考える力、批判的思考能力が身につくのですか。

A：CRT ラジオ栃木放送をはじめラジオ、TV、新聞などマスコミからの報道情報が全くなしに、この東日本大震災に遭遇(そうぐう)、出会ったとしたらどうでしょう。大きく振動し物が落下、停電、水やガスが出なくなることは実際にわかって、それ以上のことはすべて推測となります。状況が全くわからなければ、これからどうなるのか不安が増すだけです。

ラジオ、TV、新聞などによる時々刻々の情報提供は正確であればあるほど、これからどうしたらよいか、自分の力で考えることができます。身近な人々が「うわさ話」で盛り上がっていても、正確な情報をもっていればいるほど、それはちょっとおかしいのではないかと、だったらどうしようとする自分の力で考えることができます。

ラジオ、TV、新聞記者の皆様は、自分の生命の危機をも省みず、自らの「命を使う」という意味での尊い「使命感」に基づいて記事を書き、それを様々な形で我々に伝えて下さっています。そのような熱い思いを胸にしながら、熱心にラジオ、TV、新聞に接して頂きたいと希望します。

Q：具体的にはどのように新聞を読んだらよいのですか。

A：(1)原子力発電所の事故のニュースや記事に接したら、このまま復旧がかなわず、爆発が起これたらどうなるのか。自分や自分の家族はどうしたらよいのか。爆発には至らないが施設の回復が完了するまで、自分や家族はどうしたらよいのか。記事を丁寧に読みながら、自分の力で考えるべきです。

(2)被災地の避難所では皆さんがどのように過ごしておられるのだろう。そこに救援に行っておられる自衛官、消防官、警察官、医療チーム、運転手、様々な物資の供給に携わっておられる方々はどのような活動をし、どのように過ごしておられるのだろう。

- (3)被災地の方々をこれから迎える被害が比較的軽い地域の人々は、どのような準備をなさっておられるのだろう。
- (4)お金が引き出せなくなると生活に支障が出ますので、それを防ぐために日本銀行や様々な金融機関、ATM を設置している銀行やコンビニなどはどのような仕事をなさっておられるのだろう。
- (5)通信を通すために、NTT はじめ通信事業に携わる人々はどのような苦労をなさっておられるのだろう。電車やバス、タクシー、地下鉄など交通手段をストップさせないために、どのようなことをしているのだろう。
- (6)外国の人々は、どのように日本のことを心配して下さっているのだろう。様々なことを考えながら、せっかく配られた新聞を自分の力で読んで、自分でできること、自分がしなければならぬことを自分の力で考えて下さいね。

Q：開倫塾の塾生は何をしたらよいのとお考えですか。

A：(1)自分と家族の身を守ること、安全を確保することが第一です。

- (2)ただ、いくら物が欲しいからといって、店を襲ったり、お金を払わずに物を盗み取ったりするなどの犯罪行為は絶対にしないことです。
- (3)他人を不安に陥れるような「うわさ話」を聞いても、それに同調したり、他の人の不安をあおるような言動をしないことも大事です。
- (4)人間として「いやしい」ことはしないことです。
- (5)今なすべきことは、自分や家族の健康を維持することです。そのために、できることは何でもして下さい。
- (6)ラジオ、TV、新聞の報道に一喜一憂することなく、淡々と日々の生活を維持することも大事です。
- (7)心を落ち着かせ、被災地でがんばっている方々のことを思い浮かべて、今やるべき勉強を静かに行うことも大事です。3月31日までは、今の学年でやり残した勉強をしっかり行う。4月1日からは、新しい学年や学校の勉強の予習をしっかり行う。このような「まじめ」な態度が大切かと思います。

気持ちをしっかり保ち、こんな時にこそ、家族仲良く、友達とも仲良く、お互いの健康や安否を気遣いながらお過ごし下さいますようお願いします。

— 2011 年 3 月 16 日 13:30 記—